

屏風裏張文書 〇〇〇一、一番 文化十一（二八一四）年

「佐倉藩日記」解説文

整理・解説：四街道市史編さん協力員

文化十一申戌年

磯矢与一右衛門

萩原伊右衛門

松本五郎七

青木閑治

九月四日

一、昨日卯刻過、江戸御發駕千住宿御昼休、同日夜六半時過船

橋駅江被遊 御着座、今四日卯上刻舟橋駅被遊 御發駕、同

日申上刻被 御城着候、御式之儀略

一、右 御本丸御式有濟、三之丸 御殿江被為 入、御式之儀者略

一、御朱印・御長持、於御玄關今井扇助并御徒士杉村介之進より、

当役五郎七・閑治并御朱印守、御近習坂本登罷出、無滯受取

一之御次江据置

一、甚大寺江御次告 御名代、御年寄相勤候ニ付、其段御側御用人より申上候

一、野村多左衛門儀、御道中御帳役引持被 仰付、罷越候ニ付、江戸同役より差越候、早々受取候

五日

一、明六日五時御供揃ニ而御曲輪廻り可被遊旨、御用人より廻達

六日

一、今五ツ時御供揃、五半時為御曲輪廻被遊 御出、尤 御歩行

ニ而被為入、 御帰殿四半前式寸

一、明七日九半時揃、学校諸生素読・講釈可被遊 御聽之旨被 仰

出、尤門弟中三切ニ三日ニ可被遊 御聽之旨被 仰出、其段中

条新九郎江申遣候、向々江申達

一、甚大寺 常楽院様江 御名代新達源之進相勤候、書拔老通御用人差出候

一、江戸御便之儀、其都度々々 御書可被進哉之旨、当役ニ而伺来候ニ付、其段御小納戸元方西村平右衛門江五郎七及相談之処、

其旨同人相伺候得共、御便之儀当役より申上候ニ不及旨、尤御小納戸江も御便之義者申来候間承知之事故、以来当役より申上、御書伺候ニ及不申段被 仰出候旨、西村平右衛門申聞候

一、先達而中、中条新九郎申聞候学校定番加藤駒右衛門義、兼々学問出精仕候ニ付、素読・講釈 御聴被遊候節、唯心院様御代小役人子供者差出、足輕以下者名前計申上候様、被 仰出も有之候ニ付、右駒右衛門儀者当時所々定番席ニ御座候間、差出候而茂不苦候哉、新九郎申聞、依之同役致評義候処、相分り兼候間、右之趣内々御年寄月番金井七左衛門殿江与一右衛門罷越、相伺候処、一存之御挨拶相成兼、各御評儀被成候処、差出不苦趣御同人ニ仰聞候、右ニ付小役人子供罷出候席江、以来差出可申筈取極、其段新九郎江申談置候

七日

一、五半時御供揃ニ而 御本丸不動御参詣、夫より御館向被遊 御覽、御出殿四半時、御帰殿九前式寸

一、明八日五半時御供揃ニ而、清光寺・将門山口之明神・同所八幡・本町神明・甚大寺・嶺南寺・麻賀多明神 御参詣被 仰出候

一、右御参詣之内、口之明神・八幡右両社(虫損)「参詣御延引被 仰出候旨、御用人より申来候」(虫損)「講釈・素読 御聴無滞相濟候

(後欠)

(前欠)

一、今日御朱印・御長持之内より御判物出し候ニ付、掛り御年寄・同御用人・大目付・当役相改候ニ付 御朱印御長持より差出候段申上置、四時過御用人・当役并御近習御朱印守老立會、長持より出、御年寄部屋江持参、渡邊主計殿・織右衛門・源太左衛門・五郎七相改無滞相濟、又々御朱印長持ニ納置、其段又々申上候

一、甚大寺 青雲院様・清寿院様・栄寿院様御名代足立安左衛門相勤候、書拔御用人差出候

九日

一、今日御家中之諸土辰ノ刻揃ニ而於 御本丸 御帰城之御礼被為 請候 御出殿四打式寸 御帰殿九打式寸

一、右御先番五郎七相勤候

一、明日十日 御帰城之御礼被為 請候ニ付、五半時御〔欠損〕

(後欠)

一、今五半時より外御庭於御馬場、御馬被為 召候、依而當役代

り合罷出、御側向江も乗馬被 仰付候、九時過相濟候

一、甚大寺 自性院様江 御名代由比安兵衛相勤候、書拔御用

人差出候

十一日

一、七半時御供揃、野毛平村為御巡見被為 入候、六打式寸被

遊 御出殿候、夜五時 御帰殿

一、右御巡見ニ付、當役不殘為伺 御機嫌御小納戸江罷出候

十二日

一、甚大寺 壽泰院様御一周忌ニ付 右御名代浅岡團右衛門相

勤候、書拔御用人差出候

一、右同寺 唯心院様 御名代新達源之進相勤候、書拔御用人

差出候

十三日

一、今四時過御供揃、會所江御政事 御聴被為 入候、御

出殿九前四寸 御帰殿九ツ半時

一、右ニ付、御先番御出之御先江會所江、閑治罷越御駕番相勤、御

刀掛差出候

一、誠心院様より今日御誕生日ニ付奥年寄御使ニ而來、尤御祝御答礼

干鯛 一折 御目錄計

十四日

一、甚大寺 麟祥院様江 御名代恒川十郎兵衛相勤候、書拔壹

通御用人差出候

十五日

一、当日御祝儀、御医師不殘 御前江差出、差引閑治罷出候

一、当日御祝儀、老中一同 御前江罷出候ニ付、當役ニ之御次江相

詰、引続七左衛門殿於 御前御召麻御上下被下置候ニ付、  
右同断御次江当役関冶相詰候

一、当日御祝儀、当役御小納戸江罷出候

一、御本丸不動・御庭内稻荷江 御名代河原喜右衛門相勤候、  
書拔差出候

十六日

一、今九半時より斎藤伊津記火業於中土手向野地被 仰付、非番  
之者ニも罷出拜見可仕之旨、川口牛右衛門を以被 仰出候、  
御腰掛迄当役代り合罷出拜見、夜六半時過相済候

十七日

一、今九時御供揃ニ而 御本丸江被為 入、御小納戸江御預之御道  
具被遊 御覽候  
御出殿八時前五寸 御帰殿七時打弍寸  
一、右ニ付、御先番伊右衛門相勤候

十八日

一、六時過御供揃ニ而六方野為御鹿狩被為 入候

御出殿五前五寸 御帰殿六半打五寸

一、騎馬御供左之通

御用人

浅岡團右衛門

同

渋井平左衛門

同

浅井甚蔵

同

大田垣勇記

同

香宗我部源太

御小納戸元方

西村平右衛門

一、騎馬御供ニ無之、当役左之通御供

当役

同

木川織右衛門

溜之間御取次

佐治三七

同

森 一馬

同

平野武司

御近習

金井右膳

御馬役

大沢一同太

同

萩原伊右衛門

松本五郎七

同

青木関治

一、御小納戸元方并平御小納戸之内宇佐見程右衛門・大沢類右衛門計残、其外不残御供、御近習之内嶋田紋十郎・磯矢平太郎兩人残、其外不残御先番并御供、小僧依田十蔵・後藤三之助計残、其外不残御供罷越、其外御表方・師範之者・免許之面々御供被 仰付候、御醫師北村伯春・倉次瑞益、外科濱野升甫御供被 仰付候

十九日

一、昨十八日御獲物之鹿肉、当番四人江被下候旨、元方斎藤加右衛門を以被 仰出候、御礼御小納戸江罷出候

廿一日

一、今日於 御前昼御膳当番・非番江被下置、尤佐倉之者計、御用人・御帳役・御小納戸・御近習被下置候、御礼御小納戸江罷出候

一、先便 御参府之節、御老中様御届書御廻勤之御順之儀申上方江戸表江問合之处、右御届書者御留守居之取扱、御勤順之儀者江戸表当役取扱ニ而、前々千住駅江御留守居致

(後欠)